

知事記者会見の概要

日 時：令和4年12月23日(木) 16:46～17:00

場 所：502会議室

出席記者：9名、テレビカメラ4台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆発表事項

知事

皆様、大変ご苦勞様でございます。お集まりいただき、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症への対応について申し上げます。

全国では、新型コロナの新規感染者数が増加傾向にあります。本県内では、今月の15日以降、9日間連続で前の週を下回っております。

一方、本日23日現在で、重症者はおりませんものの、病床使用率は5割前後の高い水準で推移をしております。確保病床以外の入院患者数も高止まりしている状況にあります。

これから年末年始を迎え、帰省などで人と接触する機会も多くなり、感染の再拡大も懸念される所です。社会経済活動を維持しながらも、医療のひっ迫は何としても回避しなければなりません。

こうした状況を踏まえ、先ほど開催しました「危機対策本部員会議（山形県新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部第64回本部員会議）」において、年末年始における医療ひっ迫回避に向けた取組みについて、協議・決定をいたしました。

まず、医療提供体制の充実・強化でございますが、新型コロナの確保病床を3つの病院（山形徳洲会病院、北村山公立病院、寒河江市立病院）において、7床追加していただき、合計285床での運用とされているところであります。

また、年末年始期間中に診療を行う医療機関を県民の皆様にお知らせするため、県のホームページやSNSの活用に加え、地元紙のご協力もいただきながら、2次元コード、いわゆるQRコードから検索できるようにするなど、分かりやすく周知をしております。

加えまして、陽性者健康フォローアップセンターを3回線増設しまして21回線に拡大し、引き続き自宅療養者等の相談にしっかりと対応しております。

さらに、年末年始から順次、県内の休日夜間診療所等に対して、計45,000回分の抗原検査キットを配布し、発熱外来のひっ迫回避を図っております。

次に、陽性者の早期発見に向けた検査体制について申し上げます。

帰省や旅行などをされる方を対象に、民間事業者が運営する臨時の無料抗原検査所が、12月24日から1月12日までの20日間、山形駅に隣接するホテルメトロポリタン山形内、3階の空きスペースと聞いておりますが、そこに設置されます。

詳細につきましては、会見終了後に、担当部局から説明をいたします。

また、無症状の方を対象とした無料の抗原検査及びPCR検査の実施期間を1月31日まで延長いたします。無症状の方で、検査が必要と思われる方は積極的にご活用いただきたいと思っております。

次に、生活困窮世帯に対する支援について申し上げます。

新型コロナの流行が継続する中、生活困窮者に対して、発熱時の体調不良時に備え、解熱鎮痛薬などをあらかじめ準備するための支援といたしまして、生活福祉資金の特例貸付を受けている方、約5,000世帯を対象に、1,000円分の「お薬引換券」を配布しております。

なお、この内容につきましても、この会見終了後に担当から説明をいたします。

年末年始の期間は、多くの医療機関・薬局などが休みとなります。そのため、抗原検査キットや市販の解熱鎮痛薬などの事前の準備について、私と県医師会長、そして県薬剤師会長の共同メッセージによる呼びかけを行ってまいります。

加えまして、感染対策の要でありますワクチン接種につきましては、これまでも年内接種のお願いを呼びかけているところであります。接種を希望される皆様には、できるだけ早くワクチン接種をお願いいたします。

年末年始を安心して過ごすため、県民の皆様には、次のことにご理解・ご協力をお願いいたします。

まず1点目ですが、定期的な換気の励行、場面や状況に応じた不織布マスクの正しい着用、ゼロ密、こまめな手洗い、消毒などの基本的な感染防止対策を徹底してください。また、忘年会・新年会などを行う場合、飲酒は節度を守り、箸やコップの使い回しはしないなどの対策を徹底してください。

2点目は、発熱などの体調不良時に備えて、政府が承認した抗原検査キットや解熱鎮痛薬、食料品などをあらかじめご購入くださるようお願いいたします。

3点目は、重症化リスクの低い方で、発熱等の症状が出た際には、まずは自己検査をしていただき、結果が陽性だった場合は、陽性者健康フォローアップセンターに登録のうえ、自宅療養をお願いいたします。なお、高齢者や基礎疾患のある方、妊婦さんなど重症化リスクが高い方につきましては、かかりつけ医や発熱外来にご相談いただきたいと思います。

4点目ではありますが、年末年始は、多くの医療機関が休診となります。医療機関の受診を必要とする場合は、診療を行っている医療機関へ事前に連絡のうえ、あわてず診療時間内に受診するなど、適切な受診にご協力ください。なお、繰り返しとなりますが、年末年始期間中に診療を行っている医療機関は、県のホームページなどで事前にご確認ください。

県としましては、県民の皆様のため、年末年始における医療のひっ迫回避に全力を挙げてまいりますので、県民の皆様には、引き続きご協力をお願いいたします。

私からは以上であります。

☆フリー質問

記者

山形新聞の伊豆田と申します。よろしくお願ひします。今日は、医療ひっ迫回避の対応というところで、会議もそこに特化されたので、対応のほうは理解させていただきました。11月30日の会見の際も知事おっしゃっていましたが、社会経済活動を維持しながらも、医療ひっ迫は避けるということで、県民の皆さんに改めてですね、年末年始、コロナに気をつけながらもどのような過ごし方、久々の再会とかですね、ご家族との再会で

すとか、旧友との再会とかそういうこともあるかと思うんですけども、どの辺に気をつけて過ごしてもらえればというところを改めて教えてください。

知事

そうですね。今年も年末年始が近づいてまいりました。県として行動制限はしないんですけれども、そういうことで自然体で様々な交流とかですね、行っていただけないというふうには思うんですけども、ただやっぱり、感染しない感染させないという、そういう努力をですね、皆さんがなさっていただきながら、親しい方との久しぶりの再会とかそういったことをやはり、楽しんでいただければと思います。感染対策をしっかりしながらですね、また、自然体で懐かしい方々とお会いするというようなですね、そういう喜びにつながる行動もですね、行っていただければというふうに思います。

簡単に言ってしまうと、感染対策と経済の両立ということになってしまうんですけども、ただやっぱり、県内は減少傾向ですけども、首都圏とか西日本のほうは増加傾向になってきておりますので、全国的な状況も踏まえて、やはり久しぶりにお会いになる方、特に重症化リスクの高い方とお会いする場合とかですね、そういう場合は事前に検査をするとか、様々な検査所を活用したりしてですね、安心して安全にお会いするというような行動をしていただければというふうに思います。

記者

先ほども言った、県医師会と薬剤師会と共同で検査キットですとか、解熱鎮痛薬の事前の準備を呼びかけられるわけですけど、ともすれば、心配な方がいっぱい買ってしまったとかですね、そういうこともなくはないのかなと思うんですけど、知事として、その期間とか適正に必要な分をとるか、事前準備というのは、どの程度すれば良いのかというのは、どのようにお考えですか。

知事

そうですね。年末年始という期間にね、お買い求めが殺到するようなことにならないようにですね、必要な分だけというようなことでお願いできればというふうに思います。そういった準備をお願いするわけなんですけれども、生活困窮している世帯の皆様方にとっては、そういった準備もなかなか大変ではないかと思われましたので、「お薬引換券」というようなものも支援をさせていただきまして、皆さんが本当に、あまねく皆さんが年末年始をですね、安全安心に過ごしていただければというふうに思っています。

記者

毎日新聞の熊田です。「県民の皆様及び事業者の皆様へのお願い」という内容で、11月30日付けの文章にはありました、季節性インフルエンザとの同時流行への懸念というの

が、今日付けの文章にはないんですけれども、東京都なんかはインフルエンザの流行のほうの宣言というか、されたりとかしているようですけれども（補足：12月22日（木）に東京都はインフルエンザの流行入りを発表した）、山形県に関しては、こと年末年始に関してはですね、インフルエンザとの同時流行については、あえて文書化しなくても大丈夫な状況なんではないでしょうか。

知事

ええ、最近の状況ということでは、県内でインフルエンザが蔓延しているというようなことはないと聞いておりますので、あえてそこまでは踏み込みませんでした。また、あと数日ございますけれども、その様子も見ながらですね、もし、インフルが急激に蔓延してきたらと、そんなことがありましたらば、また付け加えていきたいというふうに思います。